

きらり

vol.20
2019年9月



巻頭言

がん集学的治療センターの 医療・連携について	2
診療ドクター紹介	6
連携医紹介	7
連携室ニュース	8

特集 3-5

がん診療連携拠点 病院



がん集学的治療センターの 医療・連携について

がん集学的治療センター
副センター長（兼）泌尿器科
主任科部長

おか やす ひ こ
岡 泰彦

皆様ご周知のとおり、最近ではがん治療が多岐にわたってきており、さらにその組み合わせはますます複雑になってきております。

診療科も細分化が進み、従来のように一人の専門医が一人の患者さんを診断から手術、補助治療、緩和医療まで総合的に治療していくことが困難になってきています。

当院では2016年7月の開院当初より、5大センターの一環としてがん集学的治療センターを立ち上げ、センター長である金田邦彦副院長の統括のもと、外科治療、薬物治療、放射線治療、緩和医療を4つの柱としてがん診療にあたってきました。複数の診療科医師ならびに看護師、薬剤師、理学療法士、事務職などの多職種が集まり、定期的のがん診療委員会を開催し、当院のがん診療上の現況・問題点を把握し、改善点・方向性を模索、検討しております。さらに肺がんや消化器がんを中心に、多職種が集う症例検討会であるカンサーボードが定期的で開催され、患者さんごとに最善の治療法を検討し実践しています。

一方で患者さんの治療が一段落した際の地域医療機関の先生方との連携も併せて進めています。胃がん・大腸がんに関してはすでに「地域連携パス」を活用し、地域のかかりつけ医の先生方とがん診療連携拠点病院である当院とが協力して情報交換を行い、患者さんの視点に立った、安心で質の高い医療を提供すべく体制を整えています。さらに当院の患者支援センターが中心となり、その他の乳がん、前立腺がんなどに関しても新たな「地域連携パス」の適応を目指して地域の先生方との調整を進めています。

当院のかかりつけの有無にかかわらず、どなたでも無料で利用できるがん相談支援室（和田尚子がん看護専門看護師担当）を開設し、がん患者さん、ご家族の不安を少しでも軽減させるお手伝いをさせていただいております。現在月30～40件の相談に応じさせていただいております。

今後も地域の医療関係者の皆様と密に連絡を取りながら、当院のがん診療連携拠点病院としての体制を整えていく所存ですので、お気づきの点についてご意見をいただけましたら幸いです。

がん診療連携拠点病院



がん集学的治療センター 手術療法室 室長
田中 智浩

当院手術部では、新生児からご高齢の方まで、患者さん個人に合った最適な手術ができるよう、各診療科と共同カンファレンスをもちながら、手術準備を万全に整え、安全な手術提供を心がけています。現在、手術看護認定看護師2名が在籍しており、進歩する最新技術や知識を得ながら、手術という非日常の出来事に直面した患者さんに最も近い存在として、患者さん、ご家族の不安に対して、一番に寄り添い信頼される医療チームとして、より良い周手術期ケアが実践できるよう日々取り組んでいます。

手術室師長
中田 知廣



がん集学的治療センター 放射線治療室 室長
土師 守

放射線治療科の看護師は、がんと診断された患者さんの不安や苦痛に寄り添いながら、治療が完遂できるよう多職種と連携してサポートを行っています。

診察時には看護師も同席させていただき、患者さんの不安や気がかりを具体的に把握し、適切な情報提供を行うことで不安の軽減に努めています。

治療終了後は、晩期に現れる副作用や再発に対する不安を抱く患者さんが少しでも安心して生活できるように継続的に関わり、いつでも相談できる存在であり続けたいと思います。

がん放射線療法看護認定看護師
山中 真美



最新の全国がん統計では死亡数が多い順に、肺、大腸、胃、膵臓、肝臓となっています。当院では、これらのがんに加えて泌尿器系のがんや、女性で5位の死亡数となる乳がんにも力を入れ、各診療科の専門医師が手術を行っております。

胸腔鏡や腹腔鏡を用いた手術では、3D内視鏡を用いて精密で出血の少ない手術が可能となっています。泌尿器科では前立腺がんに対しダヴィンチを用いたロボット手術を導入済みであり、消化器外科においても直腸がんに対し8月に第1例目を行いました。ロボット手術では機器の自由度が高く、人間には不可能な角度で手ぶれなくアプローチでき、縫合操作が容易になるなどの利点があり、さらなる治療成績の向上が期待できます。

がん治療において、放射線治療は手術・化学療法とともに最も重要な柱の一つを担っています。近年の放射線治療の進歩はめざましく、画像誘導放射線治療（IGRT）、定位放射線治療（SRS/SRT）、肺がんなどに対する呼吸同期照射や前立腺がん等に対する強度変調放射線治療（IMRT）等が行われており、治療成績の向上及び副作用の低減に繋がっています。当院も新病院開院と同時に最新型放射線治療装置を導入しましたが、それに加えて動体追跡システムも導入したため、動きのある病変部に対してもさらに高度な放射線治療が可能になりました。

今後も他部門と協力しながら、患者さんにとってより良いがん治療をさらに進めていきたいと考えています。



がん集学的治療センター 副センター長

岡村 篤夫

法を含む)は8000件を超えており、兵庫県下では大学病院に次ぐ診療実績となっています。さらに当院の9階東病棟には10床の無菌治療室が設置されており、そこでは多くの白血病治療や造血幹細胞移植が行われています。入院で行われる治療の際には、理学療法士や作業療法士、管理栄養士などが連日患者のもとを訪れ、安全な治療の継続に関わるだけでなく、早期の社会復帰に繋がるようなサポートが行われています。

地域の中核病院として、最新の治療も当たり前のように提供できる環境作りを心掛け、多職種チームが一丸となって、東播磨医療圏域のがん生存率向上を目指しています。地域の医療機関の皆様方には、是非ともご理解とご協力の程、宜しくお願いたします。

集学的治療の進歩により、全がんの3年生存率は67.2%、5年生存率は58.6%にまで上昇しています。中でも、がん薬物療法の進歩は目覚ましく、殺細胞薬を用いた従来の化学療法から分子標的療法や免疫療法へと、その内容は大きく変わりつつあります。現在、通院治療室で実施されたがん薬物療法の約6割が、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を使用したものであり、特に後者の占める割合は年々増加しています。

近年、がん薬物療法の多くが外来にて実施され、当院では2階23番ブロックの通院治療室で行われています。認定看護師を含む8名の看護師が常駐しており、様々な種類の抗がん薬治療に幅広く対応しています。側には調剤室も設置され、常時3名の薬剤師により、当院で行われる全ての点滴抗がん薬のミキシングが行われています。これらががん薬物療法の治療強度を保つため、当院では祝祭日も休むことなく通院治療室での治療を行っています。2018年度通院治療室で実施されたがん薬物療法の件数(ホルモン療法・支持療法



がん化学療法看護認定看護師

出口 直子

がん薬物療法は、経口抗がん薬や免疫チェックポイント阻害薬など新規薬剤がめざましく増えています。また患者さんの背景も独居や高齢のご夫婦だけという家族構成の方が増え、患者さんが担う役割も育児や就労を続けながら治療を受けているなど様々です。このように、がん薬物療法を取り巻く環境は大きく変化していることを実感しています。ぜひ地域医療機関の皆様とより連携し、患者さんを支援していきたいと考えております。



がん化学療法看護認定看護師

糟谷 敬子

がんは今や2人に1人がかかると言われている疾患です。患者数は増加し、新しい薬剤もどんどんと開発されている現状があります。また治療の場は外来へ移り、多くの患者さんが日常生活を送りながらがん薬物療法を行うようになっていきます。

患者さんご自身ががん薬物療法を受けながらもどのようにありたいかということと共に考え、その人らしい生活が送れるようにチーム一丸となってサポートしていきたいと考えております。



がん集学的治療センター 緩和ケア室 室長

西澤 昭彦

当院は急性期病院であり、がんや臓器不全を有する難治性疾患患者が続々と来院されます。それらの患者さんの体と心の苦痛を和らげるためのケアを提供するのが緩和ケアであり、診断された瞬間から必要とされます。当院の緩和ケアチームでは、依頼があればできる限り早く現場に駆けつけることをモットーとしており、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・社会福祉士などが協力して、患者さんに対する具体的なケアの方法を主治医や治療スタッフとともに考えています。近隣の福祉関連施設、医療機関、緩和ケア病棟などと力を合わせて、地域の難治性疾患に悩む患者の皆さんが、自分らしく生活できるようにサポートしていきたいと思ひます。



緩和ケア認定看護師

阪井 美緒

当院の緩和ケアチームでは、疼痛や呼吸困難などの身体的苦痛、不安や抑うつなどの精神的苦痛、役割や仕事の喪失などの社会的苦痛、そして生きる意味の喪失などスピリチュアルな苦痛を総合的に捉えるトータルペインの考えを大切に、日常生活への支障を最小限にすることを目標に患者さんや家族のつらさに対応しています。

ケアチームの看護師として、患者さんや家族の揺れ動く心に寄り添いながら、大切にしたいことを支えられるよう多職種やスタッフと協働しサポートを行っています。

がん相談支援室



当院では、がん患者さんやご家族等のQOLの維持向上および、がんになっても安心して暮らせる社会の構築を目指し、がん患者さんやご家族等がいつでもご相談いただける窓口としてがん相談支援室を設置しています。

2018年度の相談内容としては、がんに関する基本的な知識の提供や、食欲不振や脱毛などの治療の有害事象への対処についてのご相談が多く、最近では仕事の支援等のがんサバイバーシップに関するご相談も増えています。

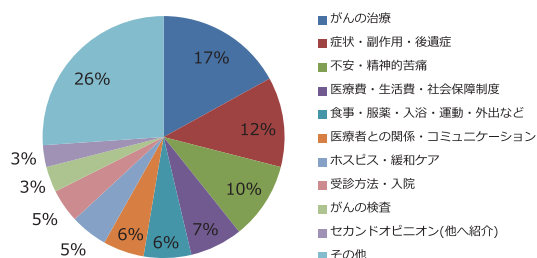
がんに関する不安や悩み、誰にも打ち明けられない気持ち、病気に対する疑問など、さまざまなご相談をお受けしています。当院に受診していない患者さんや、地域の医療関係者の皆さまにもご利用して頂きますので、お気軽にご相談ください。

がん集学的治療センター がん相談支援室 がん看護専門看護師

和田 尚子

対象：院内外のがん患者さんやご家族、医療従事者など
費用：無料
方法：電話相談：約10分程度 対面相談：約30分程度
受付：1階患者相談窓口もしくは電話受付079-451-5500（代表）
「がんの相談を受けたい」とお伝えください。

2018年度 相談内容（延べ件数583件）



がん登録について

院内がん登録とは、病院でがんの診断・治療を受けた全ての患者さんについての受診経緯・がんの種類・治療内容・進行度・生存状況に関する情報を登録、管理する仕組みです。

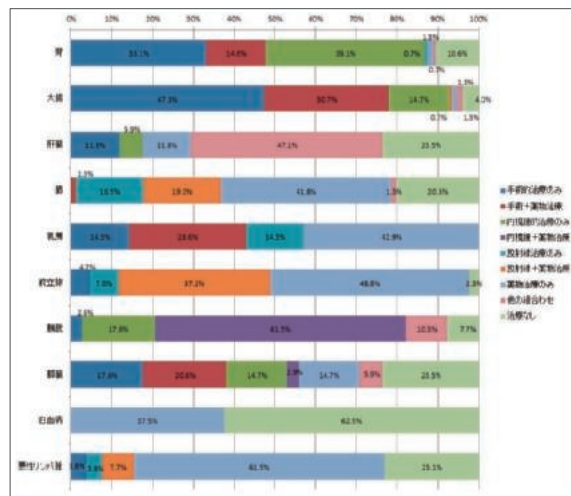
当院はがん診療連携拠点病院（県指定）として「がん登録等の推進に関する法律」第四十四条に基づき、「院内がん登録の実施に係る指針」（厚生労働省告示第470号）により、国立がん研究センターが提示する標準登録様式にてがん登録を行っています。

その登録データを国立がん研究センターへ提出し、そこで収集された情報は、治療や予防、がん対策の立案等に活用されています。また、医療施設では他施設と比較することにより、自施設の特徴を把握し、がん診療に役立っています。

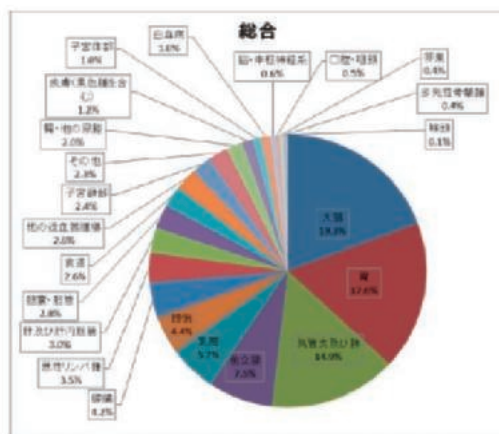
当院では、2014年症例から国立がん研究センターにデータを提出するとともに、当院のホームページでも統計データ等を公開し、質の高いがん診療に取り組んでいます。（2016年症例につきましても、国立がん研究センターへ全国がん集計提出後、10月以降に更新予定）

今後、より正確な院内がん登録を行うために地域の医療機関の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

医療業務部 診療情報管理グループ



部位別2015年院内がん登録数（加古川西市民病院）



標準登録様式

診療ドクター紹介

当院の診療担当医師を紹介いたします。
ご紹介頂く際にご参照ください。

■ 歯科口腔外科

詳しくはホームページをご覧ください

加古川中央市民病院 歯科口腔外科

検索



歯科口腔外科 主任科部長(兼)
口腔管理室長

橘 進彰 (たちばな あきら)

[資格等] 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔科学会認定医
日本障害者歯科学会認定医・指導医
日本顎顔面インプラント学会指導医
日本有病者歯科医療学会認定医・専門医
日本がん治療認定医機構認定医(歯科口腔外科)
日本がん治療認定医機構暫定教育医(歯科口腔外科)
日本口腔感染症学会理事
兵庫県病院歯科医会副会長
厚生労働省認定 歯科臨床研修指導医、医学博士



歯科口腔外科は、顎顔面領域に発症する嚢胞性疾患、歯性感染症、腫瘍、顎骨折などの診断と治療、基礎疾患を持つ患者の全身リスクを評価したうえでの抜歯を中心とした外科処置を行っています。また口腔ケアや骨吸収抑制薬による顎骨壊死など医科歯科連携の必要性・重要性が認識されるようになっていきます。これらに対して医科歯科との緊密な連携を図りながら、的確に、安全な治療を行っております。

歯科口腔外科 医長

高田 直樹 (たかた なおき)

[資格等]
日本口腔外科学会専門医
日本口腔科学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)
厚生労働省認定 歯科臨床研修指導医
医学博士

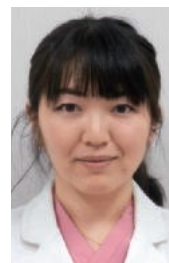


患者さんとの対話を大切に、それぞれの方に合った治療法を提案、ご理解いただいた上で治療を行っております。手術待ち時間が長くなりご迷惑をおかけしておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科 医師

榎本 由依 (えのもと ゆい)

[資格等]
日本レーザー歯学会専門医
日本口腔外科学会認定医
日本口腔科学会認定医
医学博士



患者さんにはできるだけ丁寧な説明を行い、治療についてご理解いただけるよう心がけております。口腔外科疾患の治療を中心に地域医療機関の先生方との連携を行い、地域医療への貢献を目指しておりますのでよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科 医師

岩田 英治 (いわた えいじ)

[資格等]
日本口腔外科学会認定医
日本口腔科学会認定医
医学博士



地域のみなさま、地域医療機関の先生方、口腔外科の岩田と申します。加古川に来て2年になりますが、幅広い顎顔面疾患に日々真摯に向き合い、治療に専念しております。今後とも丁寧な診療を心掛けて参りますので、よろしくお願い致します。

歯科口腔外科 医師

高井 美玲 (たかい みれい)

[資格等]
日本口腔外科学会認定医



患者さんの状態を検査した上で、治療のご依頼内容と患者さんのご希望から、最善な治療法をご提案・治療できるように心がけております。

歯科口腔外科 医師

NEW

格谷 僚 (かどや りょう)

[資格等]
日本口腔外科学会認定医



こんにちは。格谷僚と申します。今年の8月より加古川中央市民病院で勤務させていただいております。地域の患者さんのお口の中の健康を第一に考え、親身になって診療させていただきますのでよろしくお願い致します。

診療実績 ●疾患別入院患者数()内は全麻症例 (人)

	2017年度	2018年度
炎症	90(36)	70(38)
嚢胞	216(216)	246(246)
外傷	35(26)	27(22)
悪性腫瘍	3(3)	1(1)
良性腫瘍	23(23)	5(5)
顎変形症	0(0)	2(2)
粘膜疾患	11(8)	5(3)
有病者・障害者	297(12)	320(3)
その他	192(190)	197(191)
インプラント	1(0)	0(0)
計	868(516)	873(511)

連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

かみおかこどもクリニック [診療科:小児科]

当院は2013年に西神吉町に開院いたしました小児科クリニックです。周囲には田畑が広がり、緑豊かな非常にのどかな環境で日々診療しています。

私は加古川中央市民病院の前身である加古川西市民病院小児科に勤務中、一般小児科と小児腎疾患を中心に診療しておりました。現在は「まちのお医者さん」として小児疾患全般を対象とし、地域の皆様のお役に立てるよう日々努力しております。

当院の理念は気軽に受診・相談ができ、そして患者様が笑顔で帰宅していただけるようなクリニックであることです。その理念に基づき患者様側に立った診療ができるよう常に心がけております。

また患者様の容態が思わしくない時には、いつ何時でもご紹介を受けてくださる加古川中央市民病院の先生方には心より感謝しております。

今後もスタッフ一同、一丸となって地域に根ざした診療を行っていきたいと考えておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



院長 神岡 一郎 先生



所在地：加古川市西神吉町大国73-1

駐車場台数：17台

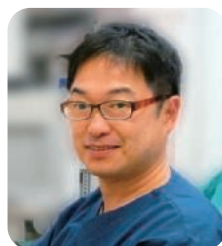
TEL.079-434-1877

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 15:00~16:00	☆	★	☆	—	☆	—	—
午後 16:00~18:00	○	○	○	—	○	—	—

☆・予防接種(完全予約制) ★・乳児健診(完全予約制)

中山クリニック [診療科：整形外科／リハビリテーション科／リウマチ科／消化器内科]

明石市魚住町で開業しております中山クリニックの中山潤一です。当院は有床診療所で、整形外科では超音波画像診断(エコー)を各診察室に常備しており、すぐに診断治療が可能です。五十肩や石灰沈着腱板炎など肩の痛みには手術する事なく痛みが消失して非常に有効です。またリハビリにも注力しており、医療リハビリから短時間型の通所リハビリ、訪問リハビリまで患者様の状態に応じて個別に対応いたします。消化器内科は女性医師2名が担当しております。現在増築中で2019年10月上旬に竣工予定です。加古川中央市民病院とは、旧病院の頃から密な病診連携を行っており大変お世話になっております。これからも地域に密着したかかりつけ医として、医療と介護を提供していきますので宜しくお願いいたします。



院長 中山 潤一 先生



中山クリニック
Nakayama Clinic
<http://www.akashi-n-clinic.com/>



所在地：明石市魚住町金ヶ崎370

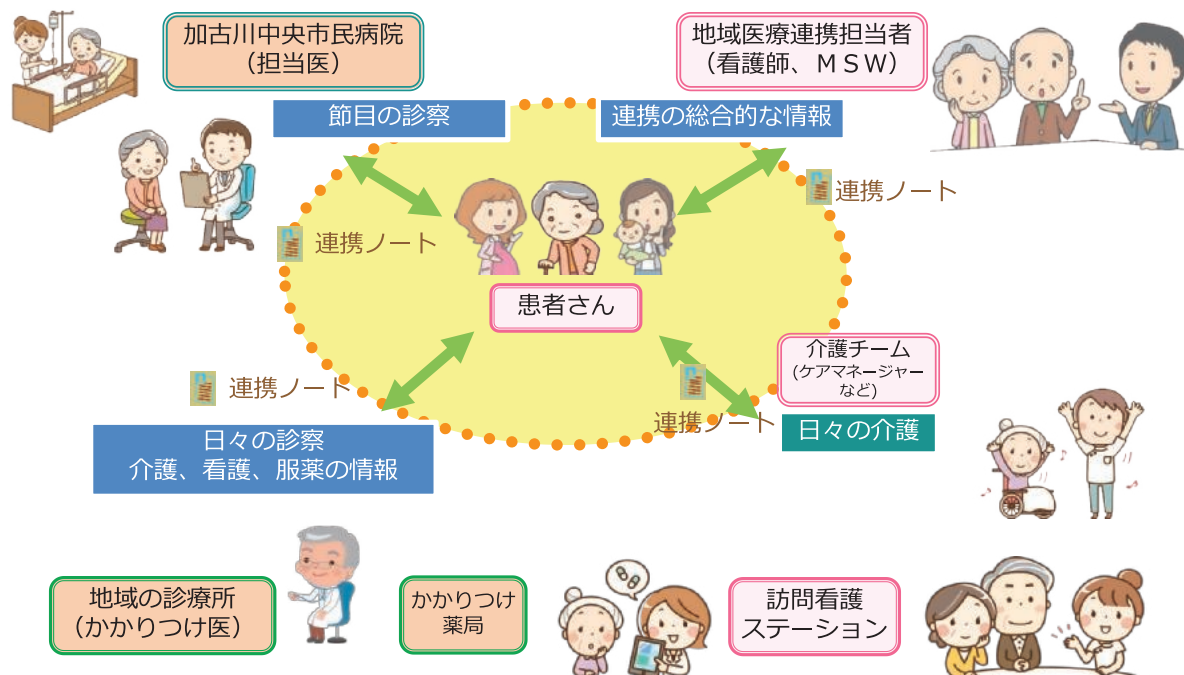
駐車場台数：50台

TEL.078-935-6060

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	—
検査予約診 午後 14:00~16:00	○	○	○	—	○	—	—
午後 16:00~19:00	○	○	○	—	○	—	—

午前は11:45 午後は18:45までに受付をおすませください。(初診の場合)
体外衝撃波疼痛治療は月・火・水の15:30となります。(完全予約制)

がん地域連携パスにご参加ください



がん地域連携パス

がん地域連携パスを活用することで、地域の開業医の先生方と加古川中央市民病院が協力して情報交換を行い、安心して質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとってご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安解消にもつながります。当院では「がん診療における地域連携パス」兵庫県統一版を一部カスタマイズし、術後比較的病状が安定する患者さんに、地域連携パスを用いた経過観察をお願いしています。これらの趣旨にご賛同いただき、がん地域連携パスの参加をご希望される方は地域連携室までご連絡ください。

在宅医療連携研修会

第3回が開催されました

第3回在宅医療連携研修会を8月8日（木）に開催しました。今回は平石救急看護認定看護師より、「熱中症・脱水 ～JTAS：緊急度判定システムを利用した受診の目安を考えてみませんか？」をテーマに講義と事例をもとに机上演習を行いました。連日猛暑が続く中で、まさにタイムリーなテーマであったことから60名を超える参加がありました。参加者からは、「経口補水液の摂り方がわかりやすかった。」「知識の再確認ができた。」「訪問時の具体的なチェック内容や水分の勧め方が勉強できた。」などのお声をいただいています。

